

(2) 首都直下地震の被害想定

ポイント!

最新の被害想定や地域の危険度等から、災害時の被害をイメージしましょう。

- 南関東においては、首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率が、今後 30 年以内に 70%といわれています。

◎首都直下地震による東京都の被害想定

(東京湾北部地震；M7.3)

人的被害	原因別	死者	約 9,700	人
		揺れ	約 5,600	人
		火災	約 4,100	人
	原因別	負傷者 (うち重傷者)	約 147,600 (約 21,900)	人
		揺れ	約 129,900	人
		火災	約 17,700	人
物的被害	原因別	建物被害	約 304,300	棟
		揺れ	約 116,200	棟
		火災	約 188,100	棟
避難者の発生(ピーク:1日後)		約 339 万	人	
帰宅困難者		約 517 万	人	

冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

◎首都直下地震による板橋区の被害想定

(東京湾北部地震；M7.3)

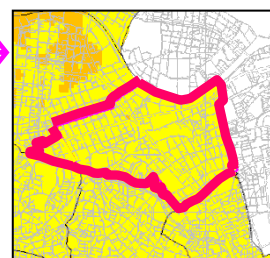
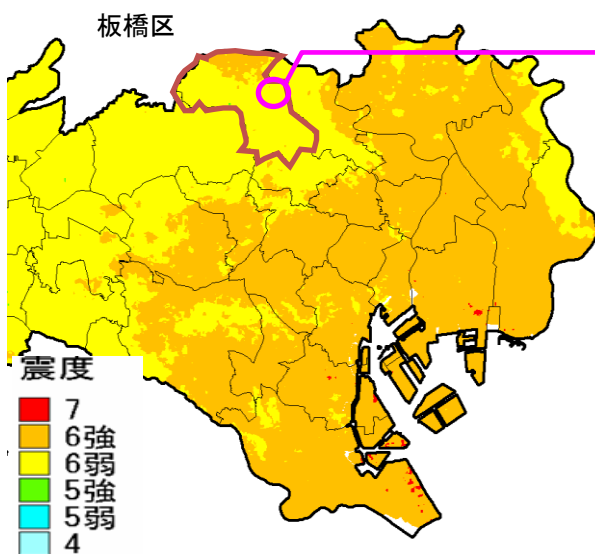
- 死者：81 人(0.02%)
- 負傷者：2,657 人(0.5%)
- 建物全壊：1,656 棟(1.8%)
- 建物焼失：747 棟(0.8%)
- 避難者：71,832 人(13.4%)
- 帰宅困難者：104,123 人(22.81%)

(注) 比率は、死者・負傷者・避難者は夜間人口比で、帰宅困難者は昼間人口比で算出。

(注) 火災は冬の 18 時・風速 8m/秒の想定

◎首都直下地震による志村坂上地区の被害想定 (東京湾北部地震；M7.3)

想定震度分布



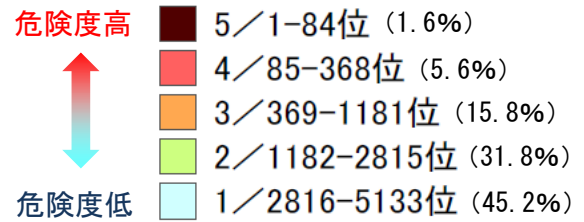
志村坂上地区は震度 6 弱の揺れが想定されています。

「震度 6 弱」とは？

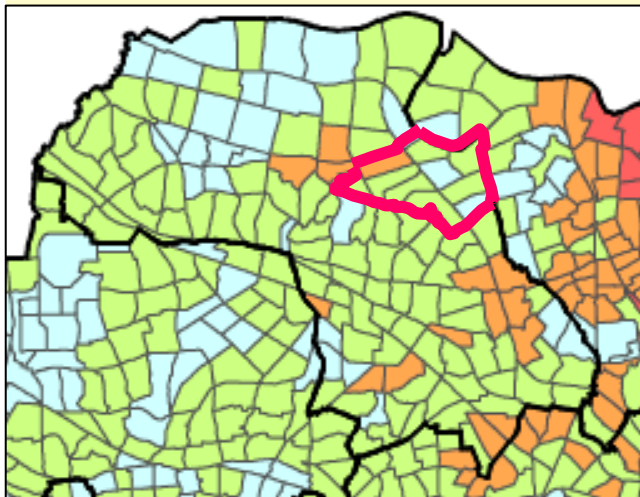
- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
- ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

(3) 地震に関する地域危険度

町丁目別の地域危険度測定調査結果について、都内 5,133 丁目を相対的に 5 段階評価したもの。

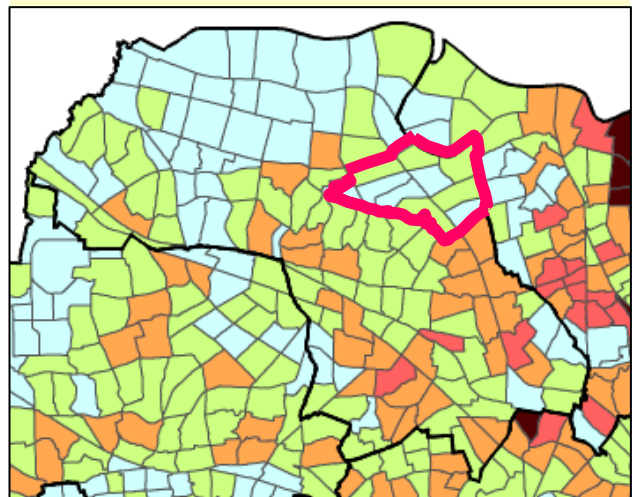


①建物倒壊危険度



○坂下一丁目が「倒壊危険度 3」と比較的高い。

②火災危険度



○志村坂上地区南側で、危険度が比較的高いエリアに隣接している。

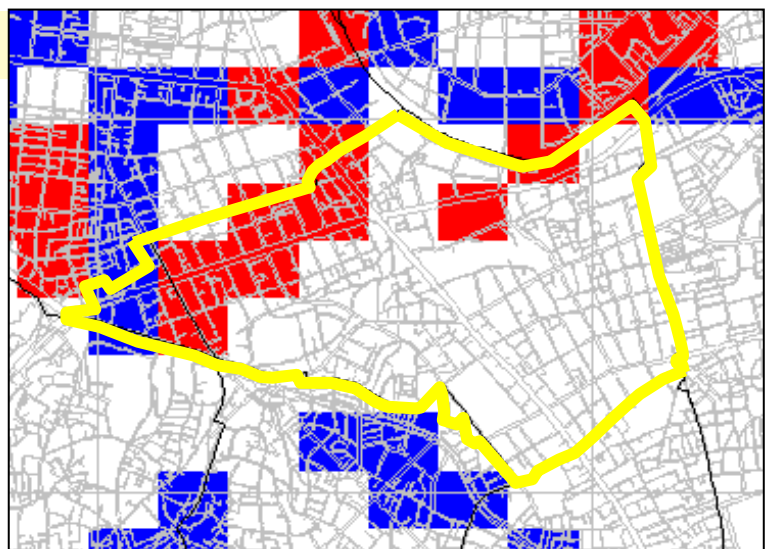
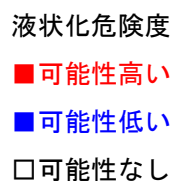
[出典]東京都都市整備局「地震に関する地域危険度測定調査報告書」平成 25 年 9 月(公表)

(4) 液状化危険度

液状化危険度の分布

・ 250m メッシュでの評価。

○地区内の一部、新河岸川、出井川（暗渠）周辺で液状化の可能性がある。



[出典]東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」平成 24 年 4 月 18 日(公表)

(5) 洪水ハザードマップ

[出典]板橋区防災課「板橋区洪水ハザードマップ」平成 17 年 7 月

新河岸川・石神井川版

- 平成 12 年 9 月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定

大規模浸水時避難所	●
小規模浸水時避難所	◆
避難所とならない学校	●
河川	—
水の深さ 2.0m以上	■
水の深さ 1.0m~2.0m	■
水の深さ 0.5m~1.0m	■
水の深さ 0.2m~0.5m	■



○崖線まで浸水し、一部、水深2m以上が想定されている。

荒川版

- 200年に一回程度発生する規模の洪水を想定。

大規模浸水時避難所	●
小規模浸水時避難所	◆
避難所とならない学校	●
河川	—
水の深さ 5.0m以上	■
水の深さ 2.0m以上	■
水の深さ 1.0m~2.0m	■
水の深さ 0.5m~1.0m	■
水の深さ 0.2m~0.5m	■



○崖線まで浸水し、一部、水深5m以上が想定されている。

(6)「危険・資源マップ」の作り方

ポイント!

まち歩きをして、災害時の危険と防災上の資源を地図上にまとめましょう（「危険・資源マップ」）。



1)まち歩きの方法

- ①役割分担
(先導係、交通安全係、計測係、記録係等)
- ②準備物の確認
(地図、カメラ、巻尺、筆記用具等)
- ③まち歩きの視点を整理
(被害想定や下記のまち歩きの視点(例)を参考に、地域特有の問題点を考える)
- ④ルート決定
(時間配分も合わせて考える)
- ⑤まち歩きによる「まちの点検」を実施
(交通安全に注意して歩く)
- ⑥「まちの点検」結果のまとめ
(まちの危険・資源などを地図上に記載する)



まち歩きのまとめのイメージ

2)まち歩きの視点(例)

1. 災害時の危険

- 土地や地盤に関するもの
 - 旧河川沿いの浸水、液状化
 - 高く傾斜の大きい擁壁や階段
- 道路に関するもの
 - 急な坂道、階段
 - 狭い道路、行き止まり
- 建物、街並みに関するもの
 - 老朽木造住宅、老朽アパート、空き家
 - 高層マンション（落下物の恐れ）
- 倒壊、転倒しそうな建造物
 - ブロック塀（古い・高い・損傷のある）
 - 倒れそうな自動販売機
- 危険物施設、出火の可能性が高い場所
 - 古い（化学）工場
 - 危険物（LPG）貯蔵施設
- 社会的影響に関するもの
 - 幹線道路
(徒歩帰宅者、自動車通行による渋滞)
 - 要支援者が多いエリア

2. 防災上の資源

- 情報の収集・伝達に関するもの
 - 防災行政無線放送塔
(小中学校や公園など区内 165 か所)
 - 拡声器等の情報伝達に必要な資器材
- 消火に関するもの
 - 消防団・区民消火隊・住民防災組織の格納庫
 - 消火栓、防火水槽、井戸、街頭消火器
- 火災等からの避難に関するもの
 - 一時集合場所、避難場所
 - 公園や広場等の空地
- 救出・救護に関するもの
 - 救出・救護用資器材
 - 病院、薬局
 - 要支援者を搬送するための担架やリヤカー
- 避難生活に関するもの
 - 避難所 □ 福祉避難所
- 備蓄物資（住民防災組織格納庫、備蓄庫等）
 - 位置 □ 管理状態 □ 周辺状況
- 風水害に関するもの
 - 土のうステーション

3)危険・資源マップ

○このマップは「平成27年度板橋区地域別防災対策マニュアル策定ワークショップ」により作成されたものです（拡大版が折り込まれています）。

○大規模災害に備えて、このマップをもとに「災害時の危険」を具体的に想定し、「防災上の資源」を使ってどのように対応するか確認しましょう。

・板橋区が所有するデータを用いていますが、データの精度の都合上、実際の位置と地図上の位置にずれがある可能性があります。

・この防災マップの作成にあたっては、株式会社ミッドマップ東京の承認を得て、背景図を使用しています。また地図の無断複写を禁じます。（利用許諾番号MMT利許第27028号-42）

- 町会・自治会(住民防災組織)
- ①志村町会、②志村城山町会、③志村五楼町会
④志村親和町会、⑤坂下一丁目南町会、⑥小豆沢一丁目町会
⑦小豆沢二丁目町会、⑧小豆沢緑町会、⑨小豆沢北町会
- 支部域 — 板橋区域 —
町会、自治会区域 — — —



防災上の資源

- 一時集合場所
- 避難場所
- 避難所
- 消火栓
- 街頭消火器
- 防火水槽
- 防災協力井戸
- 防災用深井戸
- 災害時給水ステーション
- 防災行政無線放送塔
- 住防・消火隊格納庫
- AED設置場所
- 土のうステーション
- 消防署
- 警察署
- 救急病院
- 区役所・支所・区民事務所
- 地域センター
- 区民集会所・ホール
- ふれあい館・いこいの家

その他防災上の資源 (写真一部掲載)

公園、駐車場、神社、寺、事業所(人、車両、飲料、台車、はしご、フォークリフト、体育館、空地、通信、AED等)、福祉施設、専門学校(看護、日本語)、病院、医院、ドラッグストア、まちのマップ看板、掲示板、ソーラー街路灯、ホームセンター、コンビニ、公衆電話、公衆トイレ、コインランドリー、銭湯、井戸、湧水

災害時の危険

- 地盤(崩壊)**
新河岸川沿い(水害、液状化)、崖地、急傾斜地、擁壁
- 建物(火災・崩壊)**
住宅密集地域、老朽家屋、空き家、ブロック塀外壁が崩れている建物、ピロティ型の建物
看板・大型ガラス(落下の恐れ)
危険物貯蔵取扱所、工場(危険物がある恐れ)
- 道路(閉塞・通行支障)**
狭い道路、行き止まり路、急な階段、坂道
幹線道路交差点(混雑)、放置自転車、路上障害物
街路樹の根による歩道破壊
- その他**
都営住宅・高齢者施設(要支援者の心配)
神社鳥居(倒壊)



ポイント！

地震による被害が、いつまでどのような形で続くのかを示す「被災シナリオ」と、それへの対応を、どのように行えば良いのかを示す「対応シナリオ」を確認し、いざというときには地域住民で協力して、適切な行動がとれるようにしましょう。

(1) 「被災・対応シナリオ」の考え方

1) 「被災シナリオ」の考え方

わが地区ではどのような被害が発生するか、発災から 72 時間までの時間の流れに沿って想像するために、「被災シナリオ」を例示します。

— p15 左に詳しく！ —

2) 「対応シナリオ(自助)」の考え方

「対応シナリオ(自助)」では、「被災シナリオ」に対応して、自分や家族の6つの行動手順(①安全確保・状況把握、②初期消火・避難、③救出・救護、④組織活動への参加、⑤避難生活、⑥在宅避難)を時系列で例示します。

— p15 右に詳しく！ —

3) 「対応シナリオ(共助)」の考え方

「対応シナリオ(共助)」では、「被災シナリオ」に対応して、自分や家族の身の安全を確保した後、地域を守るために地域住民でどのように立ち向かっていくのかについて、3つのシナリオ(①地盤被害、②建物火災、③道路閉塞)に分けて時系列で例示します。

— p16 から詳しく！ —

知っておくと便利！

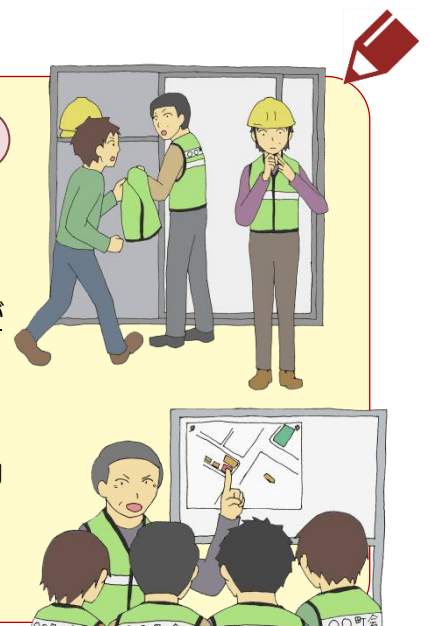
対応シナリオ(共助)の基本パターン

「対応シナリオ(共助)」を考えるにあたり、災害後の応急対応には、共通する行動パターンがあることを押さえておく役立ちます。

たとえば、いずれの応急対応を行う場合でも、まずは、①地域住民が集まり、②被害状況を把握するところから始まります。「いつ、どこで、どのような被害が発生しているか」、その集まった被害情報をもとに、③応急対応の優先順位づけをします。

その優先順位に沿って、④活動方針を決め、⑤活動体制を組み、活動に必要な⑥資器材を集め、⑦応急活動を実施します。

パターン通りにいかない場合も想像しながら、シナリオを考えましょう。



(2) 志村坂上地区「被災・対応シナリオ(自助)」

